

国際興業バス支線路線の最適化

運行素案

令和3年10月

まとめ

中藤・中沢（原市場）地区の現状

- 買い物先は「エコス原市場店」、通院先は市街地の機関及び「土屋医院」が多い。
- 中藤上郷、金山、妻沢などバス停にアクセスしづらい地域が認められる。
- 原市場小学校スクールバス、原市場福祉センター送迎車を活用できる可能性がある。

中藤・中沢線の現状

- 少子高齢化等の影響で、輸送実績が悪化している。
- 市は毎年**460万円**の補助金を交付している。（H26～）
- 朝夕は、通勤・通学のため比較的まとまった需要がある。
- 「中藤（青石橋）」～「中沢」の利用が極めて少ない。

まとめ

最適化の方向性

- ① 平日朝夕は大型バスの運行（スクールバスの活用を含める）を維持し、通勤・通学者の駅までの輸送を検討する。
- ② それ以外の時間帯について、路線バスではない**新しい移動手段を導入**する。
- ③ 国際興業バス名栗本線（軸の路線）に接続する**「拠点」**を設ける。
 - ・主に高齢者が、日中の買い物、通院をかなえられる移動手段とする。
 - ・拠点で路線バスに乗り換えることにより、飯能駅方面に移動ができるようにする。

まとめ

南高麗地区の現状

- 買い物先は「アルプス飯能美杉台店」、通院先は「南高麗診療所」が多い。
- 苅生などバス停にアクセスしづらい地域が認められる。
- 飯能リハビリ館の移送サービスが実証運行中である。
- その他、南高麗福祉センター送迎車等を活用できる可能性がある。

間野黒指線の現状

- 少子高齢化等の影響で、輸送実績が悪化している。
- 市は毎年約**390万円**の補助金を交付している。
- 下りは「上畑」の利用が多く、上りは比較的まんべんなく利用されている。
- 朝夕は南高麗小学校スクールバスとしても活用されている。

まとめ

最適化の方向性

- ① 公共交通と社会資源の活用を併せて、**総合的に公共交通網を確保**する。
 - ・地区住民が求める新たな移動手段について検討する。
 - ・地域イベントのあり方を含め、間野黒指線の抜本的な見直しをする。
 - ・飯能リハビリ館の移送サービス等社会資源の活用により、公共交通を補完する。
- ② 軸の路線に接続する「**拠点**」を設ける。
 - ・主に高齢者が、日中の買い物、通院をかなえられる移動手段とする。
 - ・拠点で路線バスに乗り換えることにより、飯能駅方面に移動ができるようにする。

国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線の最適化について

市内を運行する国際興業バス中藤・中沢線及び間野黒指線については、少子化等の影響により輸送実績が悪化しており、市は協定に基づき補助金を交付しているものの、採算をとることが極めて難しい状況にあります。運行事業者である国際興業株式会社からは、現状のままでは路線の維持が困難であると以前から申し出がされているところです。

このような状況を受け、当該バス路線の現状分析結果やアンケートにおける意見等を踏まえ、各々のバス路線の最適化及び新しい移動手段の運行素案をまとめました。

今後は、この運行素案を基に、沿線の地域住民及び交通事業者と協議を進めてまいります。

1 中藤・中沢線（原市場地区）	
①運行事業者	乗合許可を取得した事業者（国際興業株式会社等）
②運行主体	市の補助を受けて事業者が主体となり運行する。（緑ナンバー）
③運行方法	・定時定路線運行を基本とし、一部区間をデマンド方式（予約制）とする。 ・朝夕は原市場小学校スクールバスを活用する。
④運行日	週6日（月～土曜日想定）
⑤運行便数	13便／1日（日中のおでかけ便がない曜日については 9便／1日）
⑥車両	・スクールバスの活用時間帯は 大型車両 ・日中のおでかけ便は 15人乗りのワゴン車両
⑦運行経費	年間約 2,000 万円
⑧市負担額	運行経費年間約 750 万円、車両に係る経費、利用促進に係る経費
⑨国庫補助	運行経費 年間約 750 万円 ※車両に係る経費、利用促進に係る経費についても補助金の対象

2 間野黒指線（南高麗地区）	
①運行事業者	乗合許可を取得した事業者（市内タクシー事業者等）
②運行主体	市からの補助を受けて事業者が主体となり運行する。（緑ナンバー）
③運行方法	・定時定路線運行を基本とし、一部区間をデマンド方式（予約制）とする。 ・朝夕は南高麗小学校児童の通学に利用できるものとする。
④運行日	週6日（月～土曜日想定）
⑤運行便数	7便／1日（日中のおでかけ便がない曜日については 3便／1日）
⑥車両	10人乗りのワゴン車両
⑦運行経費	年間約 1,000 万円
⑧市負担額	運行経費年間約 425 万円、車両に係る経費、利用促進に係る経費
⑨国庫補助	運行経費 年間約 425 万円 ※車両に係る経費、利用促進に係る経費についても補助金の対象

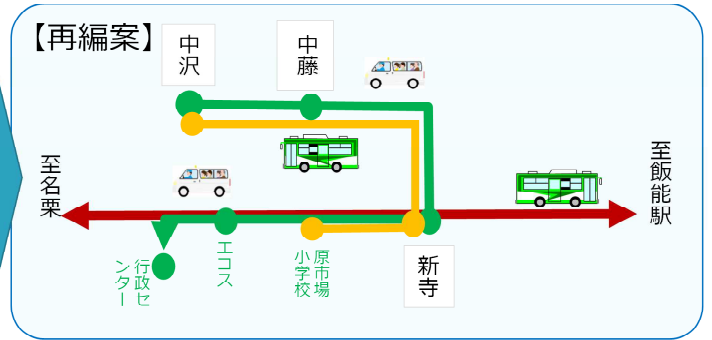
※運行素案の詳細については資料 4-1、4-2 のとおり

再編案 (中藤・中沢線)

再編の方針案

- ①朝夕は、中沢・中藤～新寺間を運行し、名栗本線に接続する。
→**スクールバスを活用**する。
- ②日中及び夜間は、**新しい移動手段を導入**し、地域拠点に接続する。
→定時定路線運行と予約型運行を併用する（ハイブリッド型運行）
- ③現行の国際興業バス中藤線、中沢線は**廃止**する。

再編イメージ① 運行経路



【メリット】
飯能駅まで直接移動できる。

【デメリット】
地域拠点に行くには乗換が必要で、日中の運行が少なく、高齢者の買い物、通院に不便である。

【メリット】
地域拠点に直接移動でき、日中の運行が多く、高齢者の通院、買い物などのおでかけに便利である。

【デメリット】
地域拠点までの運行で、飯能駅には乗換が必要である。

凡例	国際興業バス中藤・中沢線	●—●	原小スクールバス（混乗あり）	●—●
	国際興業バス名栗本線	●—●	原小スクールバス（混乗なし）	●- -●
	新しい移動手段	●—●		

3

再編イメージ② 運行頻度

【現行】 中藤時刻表 平日 7 便（毎日）

時刻	飯能駅行
6 25	(中藤発)
7 05	
8	
9 35	
10	
11	
12	
13 20	(中藤発)
14	
15 35	
16	
17 55	
18	
19 26	(中藤発)

【再編案】 平日10便程度（週3～6日）

時刻	新寺方面行	
6		
7	2～3本（週6日）	スクールバス活用便
8		
9		
10	3～4本（週3日）	新しい移動手段
11		
12		
13		
14		
15	1～2本（週6日）	スクールバス活用便
16		
17		
18	3～4本（週6日）	新しい移動手段
19		
20		

4

再編イメージ③ 経費



5

再編の概要① スクールバス活用便

1. 運行内容

- ・平日の朝夕（スクールバス運行時間の前後の時間帯）に運行する。
- ・「中藤・中沢」～「新寺」間を往復して運行する。
- ・週6日、朝2～3便 夕方1～2便 運行する。
- ・一部の便で、原市場小学校の児童と混乗（相乗り）する。

2. 車両

- ・大型バス（現行の国際興業バス）

3. 運賃

- ・「距離制運賃」とする。
- ・国際興業バスの定期券の利用を可能とする。

6

再編の概要② 新しい移動手段

1. 運行内容（定時×予約 ハイブリッド型）

- ・決まった時間（定時）に、決まった経路（定路線）を運行する。
- ・利用者が少ない区間は、予約型運行を取り入れる。
- ・地域拠点（エコス、原市場地区行政センター等）に接続する。
- ・週3日運行する。

2. 車両

- ・リース車両（※本格運行移行時に車両購入を検討）
- ・狭あいな道を運行できるよう小型のワゴン車両（定員15人程度）

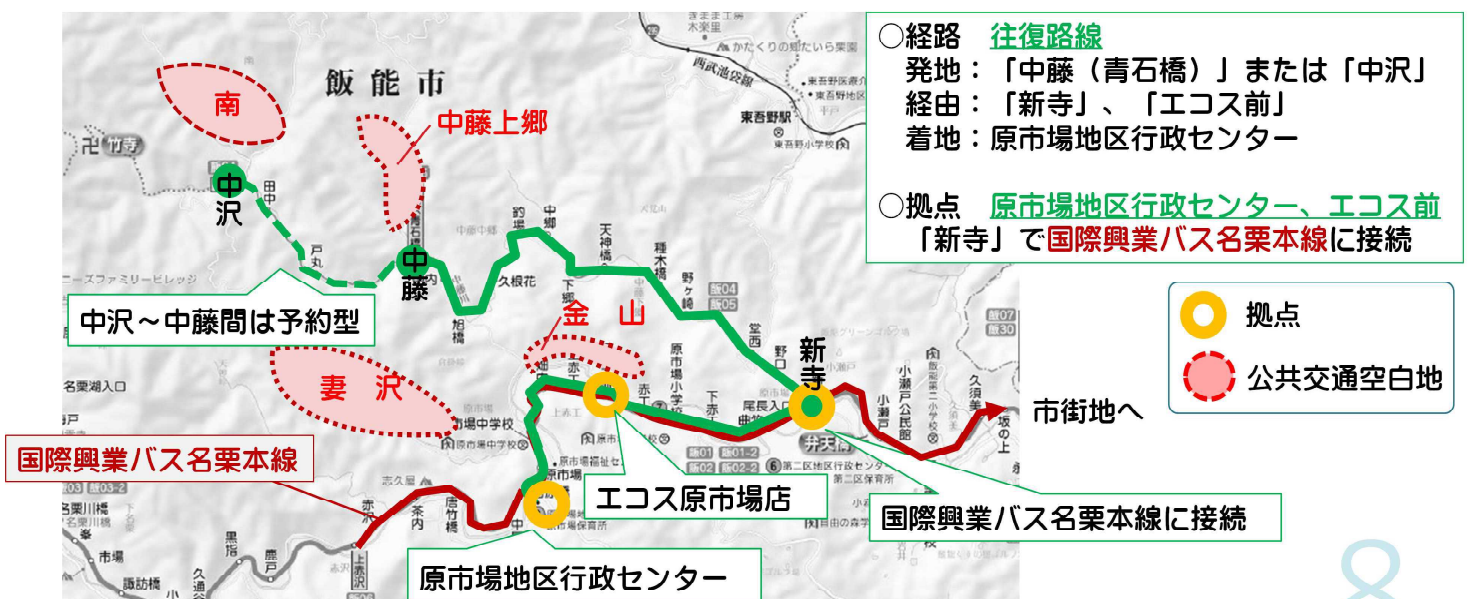
3. 運賃

- ・「均一運賃」とする。
- ・国際興業バスの定期券の利用を可能とする。

7

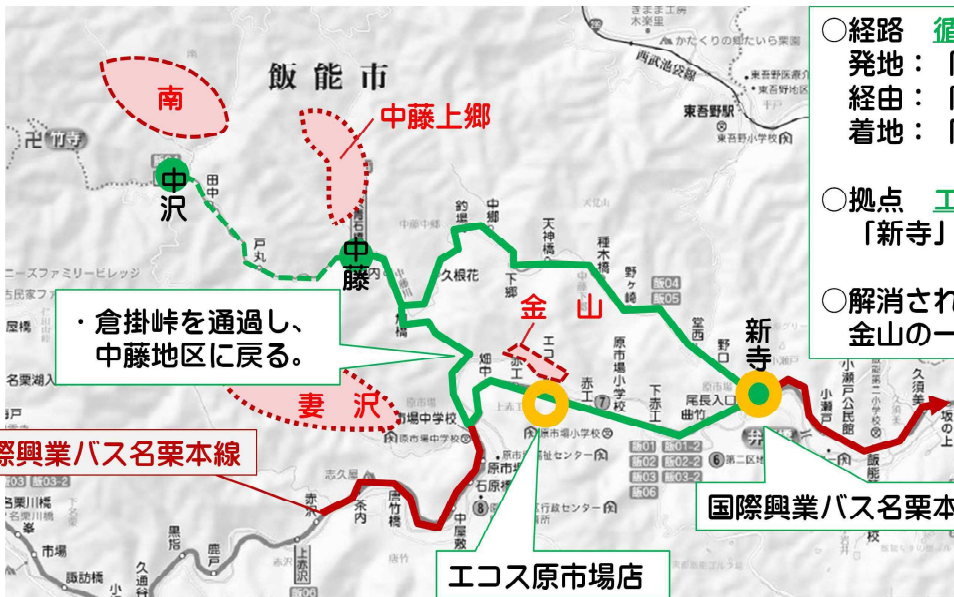
最有力候補

新たな移動手段運行案① ～地区行政センター往復型～



8

新たな移動手段運行案② ～倉掛循環型～



○経路 **循環路線**
 発地：「中藤（青石橋）」または「中沢」
 経由：「新寺」、「エコス前」、**倉掛峠**
 着地：「中藤（青石橋）」または「中沢」

○拠点 **エコス原市場店**
 「新寺」で**国際興業バス名栗本線**に接続

○解消される公共交通不便地域
金山の一部

● 拠点
 ● 公共交通空白地

国際興業バス名栗本線

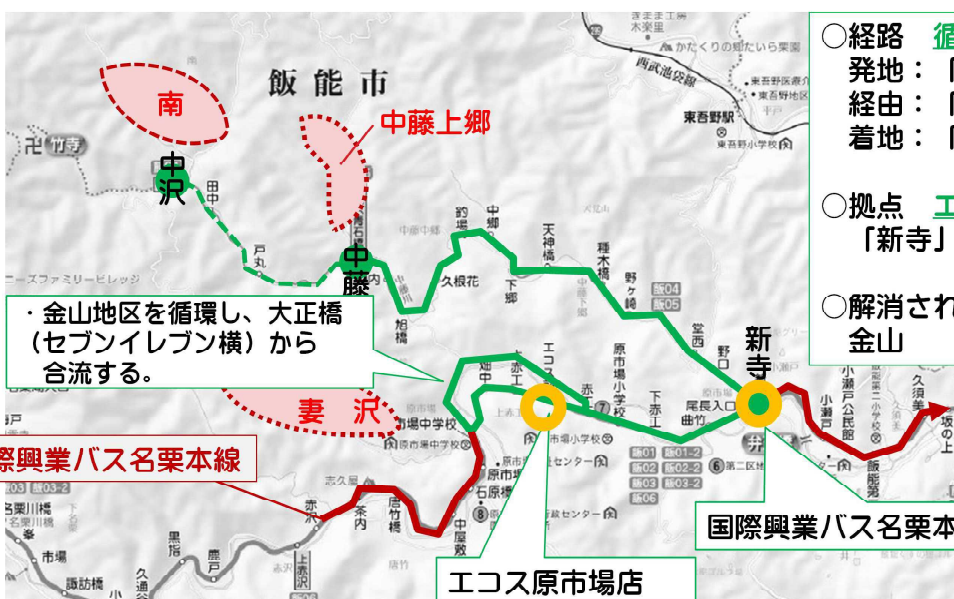
国際興業バス名栗本線に接続

エコス原市場店

・倉掛峠を通過し、
 中藤地区に戻る。

9

新たな移動手段運行案③ ～金山循環型～



○経路 **循環路線**
 発地：「中藤（青石橋）」または「中沢」
 経由：「新寺」、「エコス前」、**金山**
 着地：「中藤（青石橋）」または「中沢」

○拠点 **エコス原市場店**
 「新寺」で**国際興業バス名栗本線**に接続

○解消される交通不便地域
金山

● 拠点
 ● 公共交通空白地

国際興業バス名栗本線

国際興業バス名栗本線に接続

エコス原市場店

・金山地区を循環し、大正橋
 (セブンイレブン横) から
 合流する。

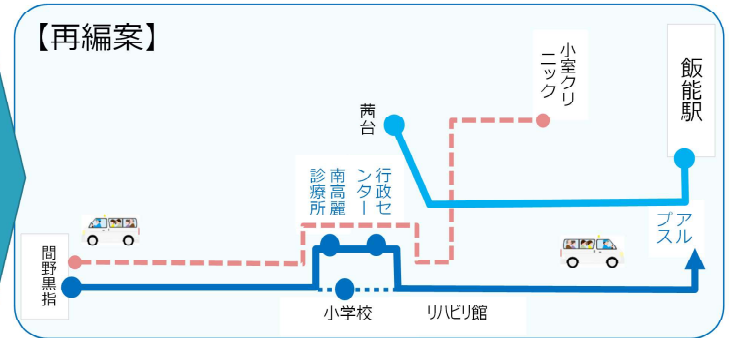
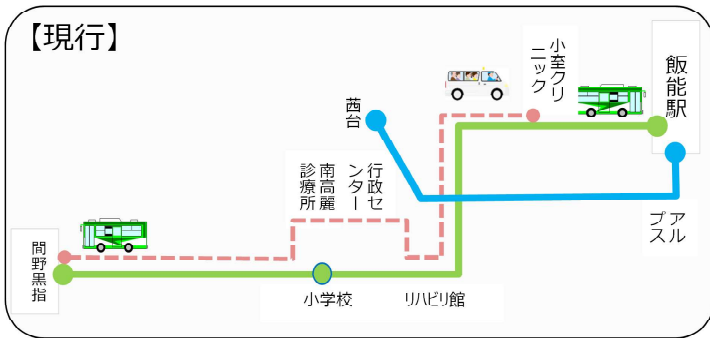
10

再編案 (問野黒指線)

再編の方針案

- ① **新しい移動手段を導入し、地域拠点又は飯能駅に接続する。**
→定時定路線運行と予約型運行を併用する（ハイブリッド型運行）
- ② **新しい移動手段と飯能リハビリ館の移送サービス**を併せて、総合的に公共交通網を確保する。
- ③ **現行の国際興業バス問野黒指線はイベント時のみ運行する路線**として維持する。

再編イメージ① 運行経路



飯能駅まで直接移動できるが、アルプス、診療所等の地域拠点には直接行くことができない。

飯能駅と地域拠点に直接移動でき、主に高齢者の通院、買い物などのおでかけに便利である。また、路線バスのバス停まで遠い一部地区をカバーできる。



3

再編イメージ② 運行頻度

【現行】間野黒指時刻表 5便（毎日）

時刻	飯能駅行
7 44	
8	
9 15	
10	
11	
12	
13	
14	
15 20	
16 40	
17	
18 06	

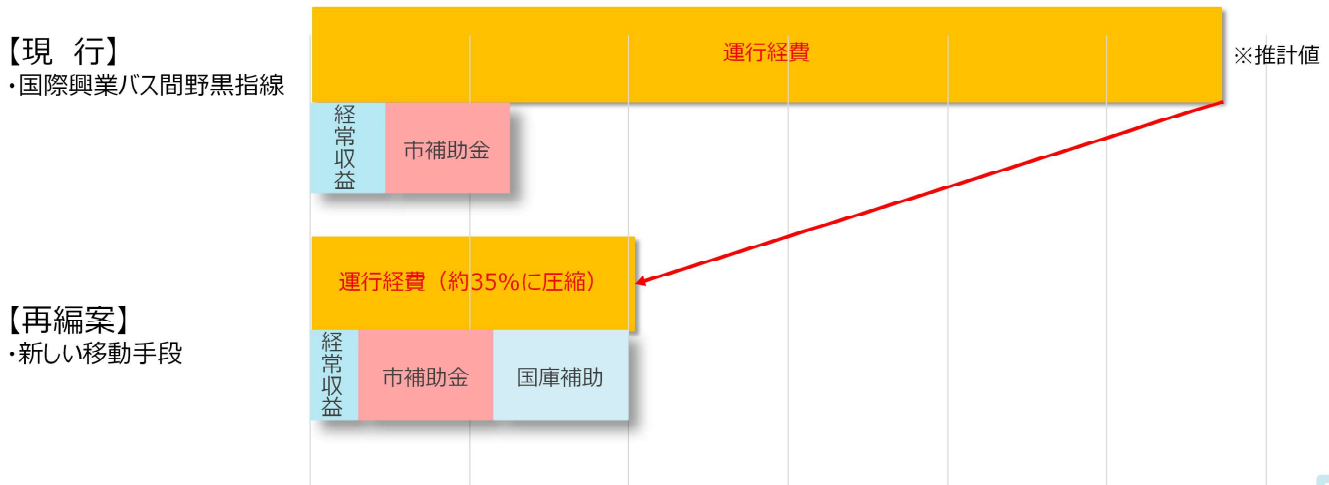
【再編案】平日8便程度（週6日）

時刻	飯能駅行
7	南高麗小学校経由 1便（週6日）
8	
9	
10	南高麗診療所・行政 センター経由 3-4便（週3日）
11	
12	
13	
14	
15	南高麗小学校経由 2便（週6日）
16	
17	
18	

児童だけでなく、だれでも乗れる便として運行

4

再編イメージ③ 経費



5

再編の概要① 新しい移動手段

1. 運行内容 (定時×予約 ハイブリッド型)

- ・決まった時間 (定時) に、決まった経路 (定路線) を運行する。
- ・利用者が少ない区間は、予約型運行を取り入れる。
- ・地域拠点 (アルプス美杉台店、南高麗診療所等) に接続する。
- ・朝夕は週6日、日中は週3日運行する。

2. 車両

- ・リース車両 (※本格運行移行時に車両購入を検討)
- ・狭あいな道を運行できるよう小型のワゴン車両 (定員10人程度)

3. 運賃

- ・「エリア別運賃」とする。

6

再編の概要② 飯能リハビリ館移送サービス

1. 運行内容（※現行のもの）

- ・国際興業バスの運行していない空白時間帯を運行する。
- ・「間野黒指」バス停～小室クリニック間を往復して運行する。
- ・週1日（金曜日）、日中2往復運行する。

2. 車両

- ・10人乗りワゴン（施設送迎車両）

3. 運賃

- ・無償とする。

7

再編の概要③ イベント用路線の維持

1. 運行内容

- ・既存の国際興業バス路線（「間野黒指」～「飯能駅」往復便）はイベント(お散歩マーケット想定)用に維持し、年2回のイベント開催時に運行する。
 - ・既存のバス停の中で必要なバス停のみ残す。
- ※運行内容については、実施団体及び市との協議により決定する。

2. 車両



- ・大型バス（現行の国際興業バス）

3. 運賃

- ・「距離制運賃」とする。

8

南高麗運行案 ※発着点・拠点のみ

-  拠点
-  公共交通空白地

- 発点：「間野黒指」or「南高麗」or 苅生地内
- 着点：西武バス飯能営業所 or スーパーアルプス or 飯能駅南口
- 拠点
 - ・地区行政センター、福祉センター、診療所、畑の蔵(コンビニ)を含むエリア
 - ・西武バス飯能営業所、スーパーアルプス、飯能駅南口



